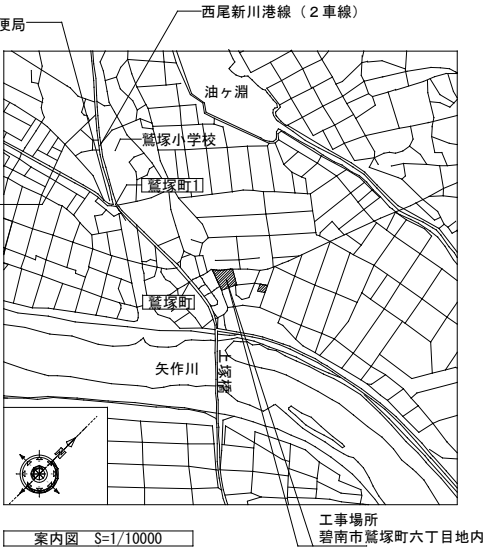


全体配置図 S=1/500
※8ヶ所：残置
(12号棟 給水供給のため残置)



建物概要

| 凡 例 | |
|-----------|--|
| | 今回工事範囲 ※一部工事範囲外撤去物有り(取壊しに伴う設備配線等) |
| | 取壊し建物等 |
| | 構内道路一方通行を示す。 |
| | 粉塵濃度測定 参考測定を示す。 |
| 解体建物概要 | |
| 構造・規模 | |
| 4号棟 | 鉄筋コンクリート造 4 階建 4 0 戸 (1,851.60㎡) |
| 10号棟 | 鉄筋コンクリート造 5 階建 4 0 戸 (1,625.40㎡) |
| 11号棟 | 鉄筋コンクリート造 5 階建 3 0 戸 (1,219.05㎡) |
| 自転車置場①～⑥ | 鉄骨造 ①18.0㎡②24.0㎡③24.0㎡④16.8㎡⑤18.0㎡⑥12.0㎡ 計112.8㎡ |
| 汚水処理場(廃止) | 管理棟 鉄筋コンクリート造 平屋 (46.82㎡) |
| | 汚水処理棟 鉄骨造 平屋 (232.53㎡) |
| その他付属物 | ・範囲内の737yft及びコンクリート舗装、現場打ち側溝、地先境界ブロック、柵、車止め、標識、擁壁 フェンス(基礎共)、コンクリート壁等上部構造物全て。(植栽を含む) |
| | ・電柱、街灯等は 図面番号 10、11、22 による。 |
| | ・埋設配管等は、図面番号 12、13、14、15 による。 |

特記事項

- 工事範囲内の建物、工作物、側溝、舗装、地先ブロック、フェンス、給排水管、ガス管、土留め、樹木等で明示したもの、及びその基礎は全て撤去の上、整地すること。
ただし、埋設管の取扱いには特に注意し、経路等を現地調査の上撤去すること。
- 工事範囲内の地表面にある工作物等は、原則として全て撤去すること。
ただし、残置すると明示したものとは除く。
- 残置ポンプ室等は12号棟より撤去するため、埋設配管等破損しないよう特に注意すること。
- 取壊し建物に係る電力・電話引込線撤去に伴う、各電力・電話会社への必要な申請やその他施工に必要な官公庁等への手続きは請負者にて行うこと。また、支障物件については関係者に確認後施工すること。
- 設備関係のメーガー・ブレーカー及びガスメーター等で残っているものは工事着手後、監督職員の指示によること。また、それぞれの取扱いについては、各供給事業者と調整すること。
- 既設撤去側溝及び管の端部は全て閉塞すること。
- 工事施工中、雨水等により土砂が工事範囲外へ流出しないよう措置すること。
- 大型車両の工事現場への出入り時は、交通整理員等をパネルゲート出入口に配置すること。
- パネルゲート前に高圧洗浄機を配置し、周辺環境を汚さないこと。
- 境界杭等は現場発生すること。撤去後必要な場合は監督職員と協議すること。
- 各住戸の便桶、汚水管及び浄化槽は清掃、消毒の上撤去すること。
- 大気汚染防止法(平成26年6月1日改正施行)に基づき、特定工事に該当するか否かの事前調査を行い、発注者へ調査報告等を書面で説明すること。
- 工事着手前にアスベスト成形板使用箇所を確認すること。撤去物があった場合速やかに監督職員に報告し、住戸内や工事範囲内の確認を行い、残置物があった場合速やかに監督職員に報告し、住戸番号、残置物の種類、数量等をまとめて報告すること。
また、監督職員の指示により分別集積を行うこと。
- POB調査は、家電メーカーに問合せ、結果を監督職員に報告し適切に処分すること。
- 廃棄物の処分については、適正な処理が可能な処理施設に搬出し処理すること。
- 建物解体時には、粉塵等の飛散を防止するため、十分な散水等を行うこと。
- 工程及び工事時間については監督職員と協議すること。なお、工程や工事時間を調整して騒音・振動を低減できるよう努めること。
- 解体工事完了後(整地前)に、撤去対象物周辺を横断的に掘削し、監督職員の確認を受けること。なお、掘削位置は監督職員と協議すること。
掘削深さ：基礎下、掘削深さ：X方向、Y方向の両端部からそれぞれ+1m。
監督職員から上記以外に掘削について指示があればその指示に従うこと。
- 解体工事完了後(整地後)に、敷地レベル、杭の残置位置、杭径、杭種及び杭頭の高さ(TP表示)を測量し敷地完成図面に記載すること。敷地レベルの測定ピッチは5mとすること。
- 解体の解体は、量、内訳はがし等の状況及び分別状況を監督職員が確認した後で実施すること。
- 廃棄物の現場外搬出をする時は、以下の事項を厳守すること。
廃棄物の各品目について、最初の1台について追跡調査を実施すること。
搬出物の各品目について、10台に1台以上の割合で積載状況及び車番(車番)の写真を撮影すること。
- 発注者が中間検査を求めた時には、適切に対応すること。
- 工事着手前に先立ち、建築基準法第15条に基づき届出を行うこと。
- 工事期間中及び工事完了後に、近隣建物や道路に損害を与えた場合や苦情等が発生した場合は、請負者の責任において速やかに復旧、補修等の適切な処置をとり、速やかにその経緯や状況を監督職員に報告すること。
- 解体工事の理髪は公共住宅建設工事共通仕様書3.2.3を準用すること。
- 現況の周辺状況等十分に把握し、必要に応じて着手前に写真を撮ること。
- 本工事において、下記事項(1～6)を厳守し、矢作川沿岸水質保全対策協議会に対して事前打合せを行い、手続き等を行うこと。
 - 工事中の排水は、水質汚濁等の影響がないように、適切な措置を講ずること。
(「建設工事における汚濁防止対策の手引き」(矢作川環境技術研究会)参照)
 - 降雨時は、工事一時中止し、適切な措置を講ずること。
 - 工事施工前、水質汚濁防止に関する施工計画書を監督職員に提出し承諾を受けること。
 - 工事が原因で下流利権者に被害を及ぼした場合は、速やかに保証すること。
 - 工区内の沈砂池及び工区周囲の道路、道路側溝は常に綺麗な状態を保つよう定期的な点検及び清掃を実施すること。
 - 施工に先立ち沈砂池の設置すること。
- 本工事においては、27)に加えて油ヶ淵漁業協同組合に対して事前打合せを行い、手続き等を行うこと。
- 雨水排水にあたっては、PH管理を行い適切に行うこと。

| 株式会社 名研設計 | | 鷺塚住宅取壊し工事(第3工区) | 図面番号 |
|--------------------|------|---|----------------|
| 一級建築士登録番号 第335873号 | 前田和雄 | 案内図・全体配置図・建物概要 | No. 04 |
| 製 | 設計 | 縮尺 A1: S=1/500・1/10000 A3: S=1/1000・1/20000 | |
| 検 | 図 | H29年3月 | 愛知県建設部建築局公営住宅課 |